

会社の熱中症対策は不十分だ！ 『申第23号』に対する業務委員会

本部は本日、『申第23号』に対する業務委員会を開催しました。これは、東海道本線の快速列車の乗務員が相次いで熱中症の症状で病院に搬送された事態を重く受け止め、申し入れたものです。

会社は、乗務中（停車中）に水分補給した場合の報告の省略や、夏服着用の前倒しなどの対策を実施したと説明しました。これに対し本部は、この対策では不十分だと反論しました。

本部は、「この間、交渉の度に熱中症対策として、制服着用の改善等を訴えてきた。しかし、会社は一切拒否し続けてきたため、乗務員が熱中症になった。マスコミから批判を受けて対策を講じた。上着は乗務員の判断で脱いでも良しとすべき、時代の流れに合ったように、ノーネクタイのクールビスにすべき、在来線車掌は個人の判断で白服か半袖シャツかを自由に選択可能とすべき」などと主張しました。そして、「これらの主張は、多くの現場社員の意見であり、会社はその意見を真摯に受け止めて更なる対策を講じるべきだ」と主張しました。

これに対し会社は、制服のデザイン性や接客スタイルを重視することが会社の考え方だと、全く聞く耳を持たず一点張りでした。

また本部は、新幹線車掌のホーム看視時における上着着用省略について質問しましたが、会社は即答はできず、確認待ちとなりました（その後、本社から電話で「ホーム看視は、基本的には車外作業に該当しないため上着着用、体調不良の場合は申し出る」との連絡がありました）。

JR東海労は、引き続き現場社員の声を会社に伝えます。

会社「デザイン・接客」

対立

組合「乗務員の命」

上着着用省略、クールビス、白服・半袖シャツ自由選択…
JR東海労は、現場社員の声を代弁しました。